

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は日頃から「笑顔で安心、一緒に暮らそう、あなたと私、ずっと家族だよ」の理念を大切に共有し、家庭的な雰囲気を利用者様はもちろんご家族様とのかかわりも笑顔で安心して頂けるよう実践しています。	『笑顔で安心一緒に暮らそう。あなたと私ずっと家族だよ』という開設時から掲げている理念を基に、ご利用者の笑顔、職員の笑顔を大切にケアを行っています。また、事業所内の各所に理念を掲示しており、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様のお友達やボランティア訪問に来て下さる方、ご近所様、又行きつけの理美容院様や化粧品店様なども親身にゆとりと応対、お付き合いして下さっていてありがたく思っています。	歌や踊りのボランティアの方に来ていただいたり、中学生に体験学習に来ていただいたり、近隣の事業所と交流会を開催するなどして、近隣の方々とは日常的に交流し、馴染みの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習の受け入れや散歩や買い物などを通して地域の人たちとふれあい会話したり、事業所見学の時など支援・対応方法などを出来るだけお答えし、又今季からオレンジカフェの場所提供をし協力することで少しづつ活かされていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、魚沼市、地域包括、民生委員、ご近所、入居者様ご家族、職員で構成される会議の中で、ご利用者様の日々の様子や状況を写真入りの資料で報告し、意見・ご指導を頂きサービスの向上に努めています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、民生委員や近隣の住民、市の担当者や地域包括支援センター職員、ご家族から出席してもらっています。会議で頂いた意見はしっかり受け止めて、サービスの質を向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査の時などに、事業所やご利用者様の様子や施設内容など疑問に思うところを発して頂いたり、話し合ったり、相談したりすることで、協力関係を築いています。7月よりオレンジカフェの場所提供の協力もしています。	市の担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、市主催の地域ケア会議や区分別ケア会議にも出席しており、いつでも気軽に相談しあえる関係にあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は日々意識し、「どれが拘束にあたるか」等考え、話し合いながら支援しています。市の研修にも参加し、社内に発信することで拘束ゼロに向けて努力しています。どうしても必要な場合にはご家族様に相談し、同意を得て必要最低限に抑えております。実施中は検討しながら外せる努力をしています。	ホームとして身体拘束は行わない方針ですが、やむを得ず身体拘束を行う場合もご家族の同意を得ています。玄関の施錠も夜間のみとし、マニュアルを整備し、身体拘束に関する研修も行ない、身体拘束をしないケアに努めています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して日常的会話の中でも起こりうることなので日々意識しながら疑問な点は話し合い、声を掛け合っています。又外部研修の参加はもちろん、内部研修でも年に一度議題にあげ、職員全員で学ぶ機会を設けています。	管理者・職員は、グループホームの密室性が虐待につながる可能性をよく理解しており、マニュアルを整備し、虐待防止に関する研修を行ない、防止に取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方、したいと思われている方が少なからず見られる中で居宅や親せきを含め、活用できるよう準備はしています。その制度が何の為のものなのかわからない職員も研修等学ぶ機会があれば参加できるように実施しています。新人研修でも取り入れて説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に沿って説明し、不安や疑問に思っていることを説明し、理解・納得を得て頂いています。又その都度の質疑応答にも答えられるように情報を共有することに努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話し合ったり、運営推進会議の場でご家族様からの意見を聞かせて頂き話し合い、反映できるようにしています。	毎月のお手紙や事業所の広報もお送りし、情報提供を行っています。苦情などは寄せられていませんが、玄関にご意見箱も設置し、面会時に確認したご家族の要望を実際に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの議題を職員の持ち回りにすることで改善点や提案をあげてもらいその都度話し合い、反映できることは実践しています。又、内部研修の場でも職員の意見を聞き、実践できることは実現できるように協力し合っています。	職員が日頃の気づいた点も改善提案を行っているほか、毎月ミーティングを行い、職員の意見を吸い上げるようにしています。社長、管理者も個別面談の機会を設け、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のない労働時間、無理のない仕事にならないようなシフト作成や声掛けをし、急な要望にも配慮され、働きやすい環境の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(内部研修)で職員が自主的に話し合える環境を整えたり、外部研修等を掲示し、参加したいものがあればいつでも申し込み、参加できる体制をもうけて職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流自体は少ないが、地域密着型区分別会議や勉強会、グループホーム交流会等を通じて取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安なこと、要望などを聞き逃さないように話に耳を傾け、答えらる要望にはご家族様と相談のもと出来るだけ早く解決できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際からご家族様の不安に思っていること、悩みなどをよく聞き、納得頂けるよう説明をさせていただくとともに、入居後も意見、要望など聞かせて頂き、変わらない関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様と十分な話し合いを行い、お互い不安なく安心して生活できる支援を心がけ、必要なサービスは随時相談・追加し、負担軽減を図れるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は在宅にいた時と変わらず、役に立ちたいと思って下さっているので、家事のお手伝い等、職員と一緒に頂き、寄り添った支援をしていく中で、お互いに何かして頂いたら「ありがとう」の言葉が自然に出てくる関係になっています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来て下さったときなどに、ご利用者様の現況を伝えたり、必要なことは相談させてもらっています。又家族からのご要望がある時は一緒に外出していただいております。	事業所広報の「あったか通信」と担当職員が作成するお手紙を毎月送付しているほか、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、外出・受診の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話で実家のことや地域の話、付き合いのあったお店のこと等、本人様の気持ちを大切に、懐かしいところへドライブや買い物、散歩、訪問、又施設に来て下さったときなどにはゆっくと交流できるようにしています。	親族の方に定期的に面会に来て頂いたり、個別支援で行きつけの場所へ出かけたり、ご自宅に帰られたり今までの関係継続支援に努めています。また、ご家族にも協力して頂き、外出に出かけたり、買い物に出かけたりもしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席や交流の場での席の配置に考慮してお互いに気の合う仲間と楽しく日々過ごしてもらえるように努めています。一緒にドライブに行ったり、散歩に行ったり、家事のお手伝い等、ご利用者様に合った支援で、利用者様同士助け合えるような支援を心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の不安を和らげられるよう必要な時は相談や出来る限り対応していただきますと話しています。地域性を活かしこれまで築いてきた関係性が継続出来ているご家族様もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご希望に添えるように支援させて頂いています。本人本位の姿勢は崩さず、職員の力だけではかなわないことはご家族様の協力も頂いております。	散歩に出かけたい方、自宅へ行きたい方、畑をしたい方、ご本人が話してくれたり、訴えてくる希望に添えるように日々の生活の中で聞こえてくる会話なども耳を傾けて把握するようにしています。また、センター方式の書式を使用し、日々の生活のなかで得た情報を職員間で共有し、支援できるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は情報を確認したり日々の会話の中から伺えるので、使い慣れたものを持参してもらったり、暮らしてきた環境に少しでも近づけられるように努めています。	事前面接の際にご家族やご本人に聞きながら情報を集めたり、入居前のケアマネに教えていただいたり、面会に来ていただいた友人から教えてもらったりと情報の把握に努力しています。また、定期的に情報の更新の機会も設けており、職員間でも情報共有できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別支援経過記録や業務日誌などに記録し、随時報告、話し合うことで、利用者様の現在の様子を共有できるように努めています。又一人一人過ごし方にもこだわりがある方には自分のペースで過ごしていただけるような環境づくりを支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングとセンター方式を利用して、サービスの評価、課題を話し合い、必要に応じて早急に、課題解決に向けたサービスを取り入れています。	毎月の会議にてカンファレンスを行い、3ヶ月に1回は定期的にモニタリングも行っています。ご家族の要望も確認し、プランに取り入れ、日々のサービスに繋げています。	調査時点で介護計画書やアセスメントシートの日付が誤っていたり、介護計画書に記載ミスのある箇所もありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別支援経過記録に記録し、大切な情報は業務日誌に記載し申し送りを受けることで共有しています。又、職員全員が出勤後に個々に業務日誌を確認することで、勤務ではなかった日の情報も取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の希望やご家族様の要望・意見に添えるように心掛けています。中にはどうしても職員だけでは対応できない要望がご本人様からあったときは、ご家族様に相談させて頂いて、出来ることはかなえてあげられるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所や行きつけの理・美容院様、スーパー等本人様が行きたいと思うところへ出来るだけ行けるように努め、行ってよかったと言ってもらえるような支援を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医について説明させていただき、特に希望のない方は施設の協力医様からの主治医をお願いしています。月一回の往診で現状報告をしているとともに、緊急時には常に主治医と連携を図れるようにしています。	協力医以外の受診は基本的にご家族にお願いしています。医療機関には受診連絡表を渡し、情報提供を行なっています。月に1度は往診に来ていただいております。連携を図りながら対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化などは詳細をFAXで主治医に相談及び指示を受け適切な支援ができるようにしています。月一回の往診では全利用者様の様子や問題点など連絡票に記入しFAXにて事前報告をさせて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と協力し、病棟関係者との連携を図っています。カンファレンスの場に参加し情報交換しあいながら協働関係を深め、早期退院に可能な限りつながるような連携ができるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に終末期・看取り確認書の説明を行い、記入していただいたものをいつでも確認できるよう個別支援経過記録ファイルにとじ、共有しています。実際の場面になったときは、再度ご家族様に確認を取り、本人に見合った支援を話し合い、ご家族様、医療と連携しながらチームで支援できるよう努めています。	契約段階で管理者は、ターミナルまで支援することを前提としたホームであることを伝え、看取りの指針やマニュアルを整備しています。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、ご利用者の状態に応じて主治医、ご家族とその都度話し合いを行っております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全職員が受け、さらに内部研修において確実なものになるように回数を重ね、事故発生時に備えて準備しています。	全職員に普通救命講習の受講を勧めており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行い、実施後反省会をし課題を克服できるよう再確認しています。自力歩行できない方をどうやって避難させるかやエレベーターが使えない時どうするかなど、避難方法の習得とともに避難用具の確認をしています。又非常食を完備し定期的に点検しています。	避難訓練を年2回実施し、運営推進会議に参加してもらっている近所の方々には非常時の際の協力を依頼しております。また、非常用の食品についても定期的に点検しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いや声を大切にし、傾聴の姿勢を心がけ、性格やプライドを損ねないようにまたはプライバシーを侵害しないように日頃から配慮しています。	広報誌への写真の掲載は入居の際に同意を得てから行なわれており、声かけも方言を使用してもきつい言葉にならないように配慮し、支援が行なわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のつぶやきや思いに耳を傾け、一緒に考えながら安心して自己決定ができるようさりげない選択肢を出したり、日々の会話の中で希望をかなえられるよう声掛けや支援をしています。自己決定が困難な方にも本人にとって何が必要で何が大切か話し合い、本人本位の決定を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で希望に添えるように常に話し合い、実現できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の気持ちに合わせて美容院などに送迎したり、朝の整容や衣服の整え、又一緒に着る服を選びながら楽しんだり、一人一人に合った支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、可能な限り普段の献立に取り入れたり、外食を計画したりしています。本人様の誕生日には好物を提供し皆様とお祝いします。又下ごしらえや食事後の後片付けや食器拭き等もお手伝いをお願いしています。	ご利用者にもできる範囲で調理や味付け、後片付けなどにも参加していただいています。また、誕生日には希望食を取り入れたり、個々のご利用者の要望に応じて外食支援を行なうなどの対応もとっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量を記録するなかで摂る量が少なくなっている方には主治医と相談のもと栄養補給剤などを処方いただき飲用して頂いています。食事や水分量も一人一人に見合った量を話し合いながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄やうがい、歯磨きの声掛け、又自力困難の方には出来る範囲でスポンジブラシを使用して口腔内の清潔を保つよう心掛けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常の支援をしていく中で、定期的にトイレ誘導を実施したり声掛けをしたりし、かかわりの中でリハビリパンツから綿パンツに切り替えが可能な方にはご家族に説明し変更されたり、出来る範囲でトイレやポータブルトイレを使用して頂けるよう声掛け、支援を行っています。	必要な方には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしており、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る範囲で体を動かしたり食物繊維や水分を多くとっていただけるような工夫をしていますが、動けない方や拒否があって摂取が難しい方もおられるので、主治医と相談して下剤(便を柔らかくする薬や漢方薬)をご利用者の状態に合わせて排便管理をしながら調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴予定表で入っていただいています。時間帯にも配慮し、入りたいと思う時間に入っていただいている方もいます。予定になくても入りたいという声があればその都度入っていただいております。また本人様がどうしても入りたくないという場合は決して無理はしていません。	ご利用者の要望を考慮し、入りたいと思う時間に入っていただいている方もいます。入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えるなどして入浴をしていただけるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じ冷暖房の管理や水枕や湯たんぼ等を使用して少しでも気分よく休めるよう努めています。睡眠リズムは個々により違うので、どうしても眠りたくない、寝れないという方は昼夜問わず職員と過ごしたり、中には入眠剤を服用されている方もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医往診時、薬を処方していただくときや、薬局の薬剤師さんなどに説明を聞き、用法・用量、副作用の確認をしています。服薬は必ず飲み込むまで確認し、変化が見られるときは随時主治医に連絡、確認し指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩が好きな方、家事全般が得意な方、工作が好きな方それぞれの生活歴や嗜好に見合った出来る範囲内の役割を一緒に楽しんでいただき、気分転換を図っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候やご利用者様の体調を確認しながら花見や実家の話が出たときは行ける範囲でその方面へドライブに出かけたり、その日買い物に行きたいなどの声が上がったときは、職員同士で相談しあいながら、行けるように努めています。最近では遠出の計画も実現し、行ける人数は限られていますが上越や長岡の方にも出かけています。	日常的にご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけているほか、季節に合わせてお花見や山菜採り、温泉や水族館にも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様、本人様と相談の上、個人財布を持っている方もおり自分の嗜好品を購入する際には支払っております。手持ちが少なくなるとさみしいと言われる方には家族に連絡し補充をお願いしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を所持している方にはかけるときの支援をしたり、身内の方からかかってきた電話を取り次いだり。かけたいときにはダイヤル支援など行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	LED電器を使用して人にも空間にも優しい光を取り入れています。又季節に合った花を飾ったり、塗り絵やちぎり絵をして共有スペースに飾ったり、冷暖房の管理を始め、臭気対策として消臭効果の高い緑茶を煎ったり、天気の良い日は空気の入替えをしたり居心地の良い空間づくりを心がけています。	全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も家庭的です。食堂のテーブルも一般家庭と同様のものを使用しており、季節の花も飾るなどして、居心地のよいリビングになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂、サンルームなど、どこで過ごされるかは個々にお任せしています。テレビを見られる方、職員と一緒に工作やお手伝いを楽しくして下さる方、適度なざわめきの中うたた寝されている方など。またイベント時には気の合う方々の席を近くにして楽しむことができるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使っていた親しみのある家具や寝具で馴染みの空間に近づけるよう配慮したり、こうしてほしいなど要望があったときはご家族様と相談し実現できるよう努めています。又本人様の好きな飾り物を好きなように飾られることで、居心地よく過ごされていると思います。	居室には、ベッドやテレビなどをご自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真や家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢の方が多く自立の範囲が減ってきているが、少しでも自立できる場所は活かすようにし、事故を防ぐためにも行動の妨げになる場所には物を置かない、居室の扉やトイレの場所、自分のものには記名をするなどし、見守りの中で自由に行動、生活できるようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	63	○ 1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	○ 1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある			○ 2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	65	○ 1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66	○ 1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	○ 1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	○ 1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			